

地域おこし協力隊 活動記 Vol.92

協力隊の穂坂修基です。

九月十四日、相馬有志会の一員として、お山参詣に参加してきました。お山参詣は旧暦八月一日におこなわれ、私の誕生日は新暦八月一日。何か特別な縁を感じての参加になりました。

幟（のぼり）を持つ役割でした。幟の色には意味があり、白は清浄潔白を、五色は古代中国の五行説に基づき、森羅万象の木・火・土・金・水を象徴しています。

二日間の練習期間でしたが、ケガもなく無事に持つことができました。慣れている人は、ほうきを手のひらにのせるようなバランス感覚で持つそうです。私は力で押さえつけたので腕が筋肉痛になりました。また来年リベンジしたいです。

お山参詣の相馬有志会に限らず、多く



(左) 五色の幟、(右) 白い幟



相馬庁舎でも披露。敏彦さんに支えられ、両手をはなせました

の団体が参加者・後継者不足に悩まされていると思います。それに加えて、感染症拡大の影響で、今まで来た人が離れていった団体も少なくないと思います。団体の規模を維持していくためには、年齢、性別、職業、町会の壁を低くし、一見さんでも気軽に参加できるような工夫やPRをしていく必要があると思います。また、小・中学校と連携し、児童・生徒がじかに体験できる機会を意図的に作り、未来の参加者・後継者候補をつくるべきです。

相馬有志会では、会長の中澤圭一さんの意向もあり、次年度のお山参詣では学校と連携する方針でいます。私は、教員経験を生かして、双方にメリットがあり、かつ、負担感の少ない連携方法を模索し、協同していこうと思います。

九月五日から「りんご大学」というサ

イトで、りんごに関するコラムを書くことになりました。恥ずかしながら、多様な品種の味や風味、食感をレビューするソムリエじみたことを載せています。

構想の段階ですが、美味しさの言語化をサポートする「りんご評価用語集」を作成したいと考えています。というのも、りんごの美味しさを表現する言葉が、甘い、酸っぱい、シャキシャキ、ジューシーくらいです。

コーヒーには評価用語集があります。上質なコーヒーのテイスティングの評価基準に使われ、産地や焙煎具合による味、香り、口あたりの違いを具体的に表現できます。例えば、「鮮やかな酸味」、「ソフトな酸味」、「薄い酸味」など、どういう酸味なのかをより正しく表現することが可能になっています。

りんごの場合も、キュートやトキの香りを「独特な香り」と括りにせず、個別的に言語化できないか。どう甘いのか、どう酸っぱいのか、どうシャキシャキなのか、より具体的に、食べたことない人がイメージしやすくなるような言葉があると思います。



農協役員室で——ネズミ盗聴記

元農協学園長

秋田 義信



農協の役員室。オンベと放送局とホライチが来ている。ホライチ

が盛んに孫の自慢話をしている。

放送局「つがる市の或る家で、チサマが亡くなって、農協の生命共済のカネで大きな墓石を建てたら、本家のダンナが怒ったぞつだ。

「本家の墓石よりも大きいとは何事だ！」と。

オンベ「右手県出身で、大正時代に首相をつとめた原敬（ハラ・タカシ）が「俺が死んだら、墓石は一尺五寸でよい」と言ったそう

だ。盛岡のその墓石は本当に一尺五寸ぐらいだ。吾（ワ）見に行っ

たんだ。」

放送局「県りんご協会を設立した

渋川伝次郎様の墓が黒石市の感随

寺の境内にあるけれども一尺五寸ぐらいの小さなものだなー」

オンベ「西郷隆盛もえらいなー。

『命もいらぬ、名もいらぬ、子孫のために田畑を買わず…』と言っている」

西郷と大久保利通の違い——二

人は生家が近所。幼いときの友人。しかし、後に生き方が違った。大久保は政治権力を欲しがった。西郷は明治政府から遠ざかり、最期は郷里の鹿児島で、大久保の官軍に撃たれて死んだ。敵弾から逃れようとしなかったという。（鹿児島に、西郷の銅像はあるが大久保のものは何もないぞつだ）

大ら、

命もいらぬ

名もいらぬ

西郷隆盛

俺の墓石は

一尺五寸でよい

首相、原敬

（盛岡出身）